# 公開授業（美術）

高等学校Ｉ学年

『いったい何が起きている？』

指 導 者　森 長 俊 六

## １．授業について

日本四大絵巻の一つ『伴大納言絵詞』は，『信貴山縁起絵巻』と並んで連続式絵巻の最高傑作と言われている。その表現の緻密さを感じ取り，ストーリー展開の工夫に気づかせることは，日本の伝統文化に触れることに他ならない。特に「ケンカ」の場面は，一つの構図に時間の経過を埋め込むという異時同図法が使われている。また，未だ登場人物が特定されていない箇所があるなど謎も多い作品である。作者の意図や表現の工夫に思いを馳せながらその魅力を味わわせたい。

このクラスは，高校に入学後，１学期はデザインや彫刻など表現活動を行ってきた。美術館での鑑賞授業も行ったが，日本美術の鑑賞活動は初めてである。ただし４割の生徒は附属中学校の出身であり，彼らは中学２年時に『信貴山縁起絵巻』と『鳥獣人物戯画』を題材に絵巻の学習をしている。クラス全体としては，表現活動など集中して取り組むことができるが，自分の考えを発表することに対して積極的な生徒は多くない。今回，グループ活動や発表の機会を取り入れることにより，アクティブ・ラーナーとしての資質を身に付けさせるだけでなく，日本の伝統美術に興味関心を持たせ，理解を深めさせたい。

絵巻の基本的な鑑賞の仕方については，既習の生徒もいるが，あらためて全体で確認し，高校からの入学者については既習事項を事前に調査する。俯瞰の構図や「すやり霞」などについては復習するが，異時同図法についてはあえて触れない。アクティブ・ラーニングへの仕掛けとしては，作品に対する新鮮な感動が何よりも重要である。そこでは質の高い鑑賞資料が必要となる。原本を扱った画集の図版では，折り皺などで詳細が掴みにくいということもあり，復元模写版[*1]を使用する。

## ２．指導案

**日　　時**　平成28年10月15日(土)　第２限(9:30～10:20)

**場　　所**　美術教室

**学年・組**　高等学校Ｉ年　美術選択クラス　ア組　33人(男子18人，女子15人)

**題　　材**　日本の伝統美術　絵巻『伴大納言絵詞』

**目　　標**　１．描かれている場面のストーリーを想像したり，表し方のおもしろさに着目したりしながら絵巻の魅力を味わう。

２．友達との交流を通して，作品をより深く味わう。

**指導計画**(全３時間)

第一次　絵巻における時間表現の工夫を感じ取る。・・・・・・・・・・・１時間(本時)

第二次　絵巻の面白さ，ストーリー展開の工夫を味わう。・・・・・・・２時間

**本時の指導目標**

・絵巻物における時間表現の工夫に気付く。

・豊かな発想でストーリー展開を構想できる。

・友達との交流を通して，作品をより洗練された解釈で鑑賞することができる。

・根拠を示して発表することができる。

**本時の評価規準**(観点／方法)

１．主体的に物語を読み解こうとすることができる。(関心・意欲・態度／話し合い)

２．友達との交流を通して，作品をより深く味わうことができる。(鑑賞の能力／話し合い，発表)

## 本時の学習指導過程

| | 学習活動 | 指導上の留意点・評価 |
|---|---|---|
| 導入(5分) | 〇絵巻の資料(ワークシート)を受け取る。<br><br>・説明を聞きながら，描かれている場面がどういう場面か考え,何が起こっているのか推測する。<br><br>〇本時の学習の流れを聞く。<br>個人→グループ→全体→個人<br>時間配分はワークシートの通り | 〇本時の学習に意欲を持たせる。<br><br>・有名な絵巻の一部である。<br>・絵巻のタイトルやストーリーは伏せる。<br>・物語の流れの中で，重要な場面である。<br>・現在は上中下３巻に分かれているが，元々は１巻だったといわれている。<br>・資料は全長約26mの1.4m分。<br>・学習のねらいに照らし合わせて，模写本を使用する。 |
| | いったい何が起きている？ | |
| 展開(40分) | ①個人で考えた内容をワークシートに記入する。<br>・どのような情景か思いを巡らす。<br>〇〇をしているところ。<br>〇〇が〇〇で〇〇のようす。<br>・描かれている人物の気持ちや会話を想像してセリフを書き込む。<br><br>②グループに分かれ,それぞれの思いを交流して，グループの考えをまとめる。<br>・縮刷版(グループ用)にフェルトペンを使って書く。<br><br>③グループの考えを全体に発表する。<br>そのように解釈した理由を述べる。<br>〇他の班の発表の感想を記入する。<br>・色々な見方感じ方を知る。 | 〇必要に応じて鑑賞の視点を示す。<br>・表情などの細かい部分に目を向けさせる。<br>・全体の構図に目を向けさせる。<br>〇セリフを入れる留意点。<br>・重要と考えられるセリフに絞り込む。<br>・吹き出しの位置や大きさを考える。<br>(関・意・態)(鑑)/ワークシート<br><br>〇４人ずつのグループを基本とする。<br>〇必要に応じて場面を考えるヒントを紹介する。<br>・左の叫んでいる夫婦は右の足蹴にされた子の両親である。<br>(関・意・態)(鑑)/話し合い<br><br>〇根拠を語らせたい。<br>(関・意・態)(鑑)/発表 |
| まとめ(5分) | 〇本時の学習を振り返る。<br>・場面の状況を説明する。詳しくは次回<br>・ワークシート４．に記入する。<br><br>〇次時の内容や準備物を確認する。 | 〇活動を振り返らせる。<br>・積極的に参加したか。<br>・自分なりの場面の組み立てができたか。<br>・他者の見方に共感できたか。<br>(関・意・態)(鑑)/ワークシート |

**準備物**　教師：『伴大納言絵詞』の縮刷版(部分)個人用，グループ用
フェルトペン，ワークシート，書画カメラ，大型テレビ，電子黒板

### ３．反省と課題

異時同図法に気付かせるという目標を立てていたが，生徒たちは異時同図法という言葉は知らないまでも,異なる時間の場面を同じ画面に描き込んでいるということを当然として違和感なく解釈を進めていた。

自由な発想を引き出すことに努めた結果，絵巻の世界にもかかわらず「UFOの出現」や「コンサートへ向かう」などの言動があらわれた。絵巻の世界では，米俵や倉などが空を飛んだりすることもあるので，まんざら突拍子もない発想とはいえないので，さらに創造的な発想を促したい。ただし，研究協議では，UFOとかコンサートとかの言動に対して前後の文脈を踏まえていないのではないかという指摘があった。確かに当時は存在しない言葉でしか表現できないことについては改善の余地があるが，内容的には，UFO→「空を飛ぶもの」であったりコンサート→「芝居」と置き換えることも可能なので，それらの思いは教師の側が汲み取り，変換をしながら進める必要があったのかも知れない。枠を取り外した豊かな発想も大事であるが，それを受け入れる周囲の環境も大事である。これからはチームでの活動が重視されるので，ともに大切にしながら進めていきたい。

註

*1『伴大納言絵巻冷泉為恭復元模写』九曜文庫蔵 中野幸一編，勉誠出版，2010